

2019年9月15日(日)朝10:10~ 主の聖靈降臨節第15、自由交歓会等  
9月第3公同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：2人の盲人のいやし(29~30節)

聖書:マタイ 9章27~31節

＜口語訳＞

新約聖書13~14頁

マタイ 9章27~31節

＜新共同訳＞

新約聖書16~ 頁

マタイ 9章27~31節

＜新改訳第3版＞

新約聖書16~ 頁

マタイ 9章27~31節

＜塚本訳＞

新約聖書91~92頁

主題:主イエス様から賜った聖靈の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

## 序論；

- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日のマタイ9:27～31は、2人の盲人のいやしの箇所で、「主の權威」が、主題ですが、これまでと違うのは、「盲人のいやし」の後、御子イエス・キリスト様は、「いやされた盲人」に厳しく命じて、誰のとも話さないよう言われたのに、彼らが主の仰せのようにしなかつたことです。

⇒マタイは、「盲人」への言及が多く、マタイ12:22、15:30、20:30、21:14と、これから箇所で、4回も出て行きます。

⇒「盲人」の家庭をSY師が紹介しておられます  
が、学校から帰って来た子供が、声掛けだけ  
でなく、父親の膝に乗ったり、抱きついて挨拶  
をするそうで、それによって父親は、帰って  
来た時の様子が分かるのです。主は、同じ  
感覚で2人の盲人に触られたと。

## 本論；

◇本日、**マタイ書9章27～31節**から主の**使信**に**思い・心**vousをとめます。

◆**マタイ9章27～31節**；使徒マタイは、神の**権威**が、憐れみを求めて叫ぶ**2人の盲人**に、「あなた達の信仰のとおりに成れ。」と、宣言され、「**目を開けて、いやして下さった**」(29節)のです。

◇**27～31節**；塚本訳◆役人の娘と長血の女

「27 そこから出かけられると、二人の盲人が「ダビデのお子様、どうぞお慈悲を」と言って叫びながら、イエスについて来た。

28 そして家にかえられると、盲人たちがそばに来たので、イエスが言われる、「わたしにそれが出来ると信じるのか。」「はい、主よ」と二人がこたえる。

29 そこで彼らの目にさわり、「あなた達の信仰のとおりに成れ」と言われると、

30 二人の目があいた。するとイエスは(急に)いきり立ち、二人にむかって、「気をつけて、だれにも知られないようにせよ」と言われた。

31 しかし彼らは出てゆくと、その土地全体にイ

エスのことをふれまわった。』と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**27～29節** ; ①「そこから出かけられると、二人の盲人が『ダビデのお子様、どうぞお慈悲を』と言って叫びながら、イエスについて來た」(27)、②「そして家にかえられると、盲人たちがそばに來たので、イエスが言われる、『わたしにそれが出来ると信じるのか。』『はい、主よ』と二人がこたえる」と(28)、③「そこで彼らの目にさわり、『あなた達の信仰のとおりに成れ』と言われると」(29)、「**2人の盲人の目がひらけた**」のです。

⇒明らかに、3つのことが記されています。

①『ダビデのお子様、どうぞお慈悲を』との**2人の盲人**の叫び、②『わたしにそれが出来ると信じるのか。』の主の問いに、**2人の盲人**は『はい、主よ』と**応え**、③そこで彼らの目にさわり、『あなた達の信仰のとおりに成れ』と言われると、「**盲人のいやし**」が、成ったのです。

⇒『光よ、あれ。』と、神が仰せになると、『光があつた(光と成った)』です。光創造と、**2人の盲人の開眼**は、神のみことばの実現です。

⇒『ダビデのお子様』は、サムエル記下7:12、歴代誌上17:11、詩篇132篇などで、「ダビデのすえから神の子が生まれ、その王座はとこしえに続く」と、神が約束されたと、ユダヤ人たちは信じ、バビロン、ペルシャ、ギリシャ、ローマの帝国支配に耐えてきたのです。**2人の盲人は、御子イエス・キリスト様**こそが、救いと解放をもたらす**「ダビデの子、救い主」**と期待して、叫んだのです。

⇒**御子イエス・キリスト様**は、彼らの神信仰を確かめ、「そこで彼らの目にさわり、「あなた達の信仰のとおりに成れ」と言われ」、いやしされたのです。家族のひとりのようにやさしく、労りの心で、「目に触って下さいました」。

⇒**SY師**が指摘されるように、肉眼は見えていますが、神の憐れみ、慈しみ見えない**「盲人」**なのです。

◇**30～31節** ;「二人の目があいた。するとイエスは(急に)いきり立ち、二人にむかって、『気をつけて、だれにも知られないようにせよ』と言わされた」が、「しかし彼らは出てゆくと、その土地全体にイエスのことをふれ

まわった」のです。

⇒TK師は、「信仰生活」と、言わないで、「信仰と生活」と、信仰と生活の間に、「と」を入れることが大事だと仰せでした。

⇒「**2人の盲人**」が、主の命令は大事だと頭で、理解できいていても、今までになかった感動と経験が実生活の中では、主のことがを忘れて行動するのです。

⇒礼拝の度に、主の祈りや使徒信条を告白するのは、「信仰生活」になり、「信仰と生活」と意識して生活できない脆さがあるからです。

⇒エペソ1:17、18;塚本訳;

17 われらの主イエス・キリストの神、栄光の父が、知恵と默示との靈を君達に与えて神の知識に至らせ給わんこと、

18 また【君達の】心の目を明らかにして、神に召され(ることによって得)た希望の何であるか、『聖徒の受くる』光栄ある(天の)『相続財産』の富の何であるか、

## 結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
  - ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
  - ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓(説教)の箇所です。
  - ◇本日の**マタイ9:27～31**は、**2人の盲人のいやし**の箇所で、「**主の権威**」が、主題ですが、これまでと違うのは、「**盲人のいやし**」の後、**御子イエス・キリスト様**は、「**いやされた盲人**」に厳しく命じて、誰のとも話さないよう言われたのに、彼らが主の仰せのようにしなかつた。
- ⇒**マタイ**は、「**盲人**」への言及が多く、**マタイ12:22、15:30、20:30、21:14**と、これから箇所で、4回も出て行きます。
- ⇒「**盲人**」の家庭を**SY師**が紹介しておられます  
が、学校から帰って来た子供が、声掛けだけ  
でなく、父親の膝に乗ったり、抱きついて挨拶  
をするそうで、それによって父親は、帰って  
来た時の様子が分かるのです。主は、同じ  
感覚で**2人の盲人**に触られたと。

⇒この箇所の中心メッセージは、「**神の御子、主イエス・キリスト様の権威**」ある力が、少女を生き返らせ、長血の女性を癒し、「盲人の目を開き」、「吃音者の口を解く」わざを見せて下さっています。

⇒ツアラート、中風、熱病等や自然界の嵐を静める等の業を通して、「**主の権威**」あるわざなのに、それに与る者の信仰のように見せて下さっています。

⇒私たちが、主のみことばに常に聞く必要があるのは、日常の目線が目の前に見える現実に生き、主の目線で見ていないからです。

⇒ヨハネの黙示録3:17、18;塚本訳;

17 お前は、「自分は金持ちである。金持ちになった。何も足りないものは無い」と言うて(いる。なるほどお前には金がある。しかし)自分(の精神)が(どんなに)惨めな、かわいそうな、貧乏な、盲目な、裸な者である(かという)ことを知らない(。

18 だ)から私はお前に勧める——(一つ)私がから火で煉った金を買って(本当の)金持ちになり、白い着物を買って、着て、

お前の裸体の恥じが露されないようにし、  
目に塗る眼薬を買って、見えるようになれ。